

月	栽培管理
1	<p>【石灰の施用】 苦土石灰 200kg/10 a 土壤酸度を適正に保つ。 葉色の悪い園では、マルチサポート 80kg/10a を施用する。</p> <p>【収穫】 品種により収穫適期が異なるので、外観にとらわれず食味を確認してから収穫する。 はるみ : 1月上旬～1月下旬 不知火 (デコポン) : 2月下旬～3月中旬</p> <p>【貯蔵】 はるみ : 酸味の強さによって、貯蔵期間を変える。常温貯蔵庫で、温州みかんと同じように貯蔵する。 1ヶ月を超える貯蔵では果実の乾燥を防ぐため、貯蔵箱単位で新聞紙数枚で覆う。 不知火 : 2～3週間の乾燥予措の後、果実の乾燥を防ぐため、貯蔵箱単位で新聞紙数枚で覆い貯蔵する。 腐敗果の点検は怠らない。</p>
2	
3	<p>【整枝剪定】 収穫後、ただちに剪定する。開心自然型とするが、樹勢維持のため主枝の先端は切り返す。 はるみ : 主枝先端部の強めの切り返しを行い、樹勢を維持する。 不知火 : 主枝先端部をやや強めに切り返す。はるみ程強く切り返す必要ない はるみはかいよう病に弱い。り病枝 (葉) は切除し、園外に持ち出し廃棄する。</p> <p>【春肥施用】 (3月中下旬) 特選みかん配合 140kg/10 a 施肥後に軽い中耕を行う。</p>
4	<p>【傷果対策】 防風対策と灰色カビ・訪花害虫 (コアオハナムグリ・ケシキスイ類) の防除を徹底し秀品率の向上に努める。</p> <p>【夏肥施用】 (6月から梅雨明け前) 特選みかん配合 160kg/10a 樹勢の低下している樹では尿素の 600 倍を散布し樹勢の回復を図る。</p>
5	<p>【摘果】 不知火、はるみともに生理落果が始まったら、樹冠上部 1/3～1/4 を全摘果し、樹勢の強化を図る。 その後、はるみは、7月下旬までに、葉 120 枚に 1 果となるよう摘果を進める。</p>
6	<p>不知火は、生理落果終了後に、速やかに葉 100 枚に 1 果になるよう摘果する。</p>
7	<p>【乾燥防止】 はるみ、不知火は、初秋の乾燥で細根が枯死しやすいため、水分ストレスを受けやすく、小玉、高酸果の原因となる。 敷きわらマルチ、ナギナタガヤの草生栽培等により梅雨明け後から秋にかけての土壤の過乾燥を防ぐ。</p>
8	<p>著しく乾燥が続く場合は灌水も検討する。</p> <p>【被覆植物の播種】 (10月上旬～下旬) ナギナタガヤ・ヘアリーベッチの播種 早魃が続くと発芽が遅れるので雨に合わせた播種をする。 播種前に除草を行い、播種後はごく浅く混和し深く土をかぶせない。</p>
9	<p>【仕上げ摘果】 (9月中旬～下旬) 小玉果・傷果・病虫害果を摘果し品質を揃える。</p>
10	<p>【初秋肥施用】 (9月中旬) 特選みかん配合 140kg/10 a</p>
11	<p>【秋肥施用】 (10月下旬) 特選みかん配合 100 kg/10a</p>
12	<p>【鳥獣害対策】 樹上で越冬させるので、ネット、被覆資材等により、鳥害、防寒対策をとる。 電気柵、鉄網柵を園外周に設置する。定期的にメンテナンスする。</p>